教育最前線

仮説的学習モデルを授業に適用している様子（関連ページ▶P5）

共同研究活動ポスターセッション（ディスカッション）

理論と実践の融合 兵教大の教育研究

スウェーデンでの調査（関連ページ▶P4）

現代の学校現場における複雑化・多様化した課題解決のために、大学と学校現場、教育委員会等が共同して「理論と実践の融合」に取り組むことが求められています。創設以来、「理論と実践の融合」を使命としてきた兵庫教育大学の取り組みについて、平成23（2011）年度から開始した「『理論と実践の融合』に関する共同研究」から紹介します。

実行機能等測定結果の検討（関連ページ▶表紙、P4）

「理論と実践の融合」に関する共同研究　進行中の研究活動一覧

27年度～28年度	自立活動における「身体の動き」の指導効果に関する研究 －知的障害児と肢体不自由児を対象として－
	研究代表者 **石倉健二**（障害科学コース教授）
	聴覚障害児のインクルーシブ教育:合理的配慮としての手話活用の実践的検討
	研究代表者 **鳥越隆士**（障害科学コース教授）
	反転授業でのデジタルコンテンツづくりを始めとして、さまざまなアクティブ・ラーニング（AL）型授業づくりとその授業実践
	研究代表者 **吉岡秀文**（理数系教育コース教授）
	いじめ予防を目的とした授業プログラムの研究2
	研究代表者 **松本　剛**（生徒指導実践開発コース教授）
	被災地宮城県の子どもの実行機能及び自己制御能力の向上に関する研究
	研究代表者 **松村京子**（学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授）
	地域における算数の授業研究会を通した、教師の力量形成プログラムの開発
	研究代表者 **指熊　衛**（附属小学校教諭）
28年度（1年間）	防災・減災に関する児童生徒のアクティブな思考・判断を促す社会科授業モデルの開発と実践
	研究代表者 **山内敏男**（授業実践開発コース准教授）
	発達障害のある生徒へのナラティブ・インタベンション・ガイドブックの作成
	研究代表者 **髙野美由紀**（障害科学コース教授）
	東日本大震災の被災後5年間における児童生徒への教育的な心理的支援に関する研究
	研究代表者 **藤原忠雄**（学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授）
	小学校のスマートフォンを利用した漢字学習における自覚できない学習効果の可視化とフィードバックによる意識変化の測定
	研究代表者 **川﨑由花**（グローバル化推進教育リーダー養成カリキュラム研究開発室准教授）
	メタ言語能力の活性化による国語科と英語科の相乗的学習プログラム開発
	研究代表者 **菅井三実**（言語系教育コース教授）

教育最前線

理論と実践の融合

兵教大における「理論と実践の融合」とは

現代の学校教育における理論と実践的課題について構造的・体系的に捉え、諸課題の解決を目指すためには、教育の理論知と実践知との融合を図る視点に立った教育研究が必要です。また、学校現場の複雑化・多様化した課題を解決するために、大学と学校現場、教育委員会等が共同して教育研究に取り組むことが求められています。このような共同研究を行うことは、兵教大のミッションの一つである「教育実践学の推進」に寄与することであるとの考えの下、平成23（2011）年度から「『理論と実践の融合』に関する共同研究」を開始しました。研究期間は原則2カ年、今日に至るまで、35件（終了24件、進行中11件）を実施しています。

学校教育の実践に主眼を置く同事業は、学校現場や教育委員会のニーズを踏まえながら研究領域を積極的に開拓し、「理論と実践の融合」に関する学際的な共同研究を推進することを目的としています。兵教大の教員（教授、准教授、講師、助教）や附属学校園の教員を対象に公募し、学内予算から「理論と実践の融合」に関する共同研究活動経費として助成しています。

これまでに、教育における喫緊の課題を中心にさまざまなテーマ・観点に関する研究を採択し、実施してきました。いずれの研究も、共同研究の成果を実際の学校現場などに還元することでさらに深化した内容へと発展させており、文部科学省特別経費や委託事業、科学研究費補助金等に採択されるものも少なくありません。

今回は、26（2014）年度に採択され、2カ年の研究を終えた3件の共同研究について、「研究レポート」として紹介します。これらの共同研究の成果から、「チーム学校」として取り組む教員養成大学の在り方について共有していただければ幸いです。

公募時に参考として提示しているテーマ・観点

研究テーマ	
（1）学力向上・カリキュラム	
観点	▶教科教育と教科内容の研究者の共同による研究
	▶学力向上につながる指導法の在り方
	▶学力向上につながる教師教育
	▶幼小中高連携カリキュラム開発
（2）生徒指導・幼児教育	
観点	▶包括的生徒指導に関する研究
	▶発達障害と生徒指導
	▶幼保一体化
（3）心理臨床・特別支援教育	
観点	▶災害にともなう被災者の心のケア
	▶地域と連携したインクルーシブ教育
（4）社会連携・社会教育	
観点	▶地域と連携した学校教育
	▶社会や自然の中での教育
	▶学社融合としてのソーシャルインクルージョン

名須川知子（なすかわともこ） 理事・副学長

終了した研究レポート

幼保一体化施策に関わる実証的研究と教員研修モデルの構築

平成24（2012）年度のわが国における子育て3新法に合わせて、学内の教員と自治体で共同研究を行いました。幼保一体化の最先端国のスウェーデン調査や、本学近隣の自治体との一体化に向けて進める共同的な話し合いや幼保相互の保育を見合う検討会、公開シンポジウムのほか、兵庫県内の実態調査などを実施。そこから、幼保における保育文化の相違という壁があり、今後の一体化の保育の質向上には保育者の資質形成が大きく関与していることが明らかとなりました。そこで、9回にわたる保育者研修モデルを提示し、さらに、本大学院独自の「子育て支援コーディネーター」資格を付与できる仕組みをつくりました。

この研究は、26（2014）年度から始まった「大学の機能強化としての就学前教育専門職養成の高度化と幼小連携を含めた総合的カリキュラム開発」（文科省補助金）の基盤となり、現在子育て支援ルーム（GENKi）も設置され、保育者の研修プログラムの実施も含めた教育・研究・地域貢献へとつながっています。

学校心理・学校健康教育・発達支援コース
松村京子（まつむらきょうこ） 教授

進行中の研究レポート

被災地宮城県の子どもの実行機能及び自己制御能力の向上に関する研究

東日本大震災により甚大な被害を受けた宮城県では、震災後も、不登校の増加に加えて、学業面、興奮や混乱などの情動面、落ち着きのなさ等の行動面の問題が報告されています。これらは、実行機能、自己制御能力の問題と捉えることができます。子どもは授業中、その場の学習以外の思考・情動や行動を抑制して先生の話に耳を傾ける自己制御が必要ですが、これは脳の前頭前野が関与する実行機能が基盤となります。

そこで本研究では、これらの能力向上を意図して、筆者が開発し、兵庫や大阪でその効果が実証されているSocial Thinking & Academic Readiness Training（START）プログラム（医学映像教育センター）を宮城県利府町の協力の下、幼稚園で実施しました。実施群と統制群との比較を行ったところ、実施群の子どもは実行機能の要素である抑制能力等が有意に向上しました。引き続き小学1年生でも実施し、同様の結果を得ています。

今後は、鳥取県の小学校でも実施する予定です。

◎終了した共同研究の詳細は、兵教大「『理論と実践の融合』に関する共同研究ウェブサイト」http://www.hyogo-u.ac.jp/riron/で見ることができます。